

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

平成30年1月11日

協議会名: 辰野町地域公共交通会議

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
事業者名:辰野町 運行系統名:町営バス川島線	○辰野町役場～デリシア前・かやぶきの館～中谷 ○小型車両1台の購入	利用者、ドライバーに聞き取りを行い、現状把握に努めた。長野県主体の公共交通ベストミックス事業を活用し、今後の運行方法を見直す取り組みに着手した。公共交通利用者にお買い物優待券があることを、広報でPRした。	A 計画どおり事業は適切に実施された。	A 輸送人員は目標12,212人/年に対し、13,205人の利用があった。町内の高校に通う学生の利用者増が、今回の結果に繋がった要因と思われる。	地元住民との懇談会等を開催し、住民のニーズを把握する。また、住民にマイ路線意識を持っていただくため、積極的利用を促す。最終的に、地元住民、利用者ニーズに沿った路線を目指す。
事業者名:辰野町 運行系統名:町営バス飯沼線	○小野駅前～中の橋～JA支所前 ○小型車両1台の購入	利用者、ドライバーに聞き取りを行い、現状把握に努めた。長野県主体の公共交通ベストミックス事業を活用し、今後の運行方法を見直す取り組みに着手した。公共交通利用者にお買い物優待券があることを、広報でPRした。	A 計画どおり事業は適切に実施された。	B 輸送人員は目標3,611人/年に対し、2,390人の利用があった。固定の通学利用者が卒業し、人口減少による新規の利用者が少ないことが、目標未達成の理由として挙げられる。	地元住民との懇談会等を開催し、住民のニーズを把握する。また、住民にマイ路線意識を持っていただくため、積極的利用を促す。最終的に、地元住民、利用者ニーズに沿った路線を目指す。
事業者名:辰野タクシー(株) 運行系統名:デマンド型乗合タクシー	○集落～町交通不便地域～JR辰野駅	利用者、ドライバーに聞き取りを行い、現状把握に努めた。30年度に向けて、停留所の変更準備を行った。長野県主体の公共交通ベストミックス事業を活用し、今後の運行方法を見直す取り組みに着手した。公共交通利用者にお買い物優待券があることを、広報でPRした。	A 計画どおり事業は適切に実施された。	B 輸送人員は目標3,871人/年に対し、3,508人の利用があった。当初の登録利用者が亡くなったり、転出し利用しなくなったことが目標未達成の理由として挙げられる。	利用者は減少傾向にあるが、運行自体は安定していると思われる。乗合タクシーへの需要は安定的にあり、今後の運行時間、停留所についても住民からの要望を聞き取りながら、より良い路線を目指す。